

平成 23 年 8 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県の主要指標 DI 値（平成 23 年 8 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：2.5% 悪化：50.0% DI 値：▲47.5% ポイント

売上高（＜増加＞－＜減少＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、増加：15.0% 減少：45.0% DI 値：▲30.0% ポイント



収益状況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：6.3% 悪化：51.3% DI 値：▲45.0% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 23 年 8 月末現在）

 30 以上	 10～30 未満	 10 未満～▲10	 ▲10 超～ ▲30 未満	 ▲30 以上
--	---	--	---	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲66.7	▲50.0	▲0.0	▲100.0	▲50.0	▲40.0	▲50.0	▲48.5
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業	全 体
▲60.0	▲55.6	▲50.0	▲23.1	▲33.3	▲85.7	▲46.8	▲47.5
							

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	お盆中の高速道路SAの売上は、前年より減少した。だからと言って、JR駅販売店の売上が上昇した訳ではないので、消費意欲の衰退を感じる。県内では、防府市の売店での菓子売上が唯一好調となっている。	パン・菓子製造業
	7月度は+5.2%と6月度に引き続き順調。8月度も8/19時点で過去最高だった昨年同月と同等の推移。お盆期間実績もほぼ昨年並み。業界で言われている「高速休日1,000円廃止の影響」は無い。猛暑のため、冷蔵冷凍機器群の冷えが悪く、節電の流れには逆行するものの、商品の品質保持のため、コンプレッサーの馬力アップなど対策が必要。館内空調については増強済。	水産食料品製造業 萩市
	先月とあまり変わらず。このところ資材や原料の値上げが多く、これも先行き不安な材料となっている。新しい政策に期待したい。	水産食料品製造業 下関市
	7月に組合員企業1社が販売不振により倒産したが、原材料価格の高騰と販売単価の下落による収益の悪化も多少影響がある。	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	先月同様、受注単価低下は続いています。シーズン変わりの新製品投入で、売上は増加している。今後の状況については依然本業での収益状況が厳しい。組合員の中には、円高の影響で、長期の「為替デリバティブ」の問題が、改善できず企業の存続を左右しかねない状況となっている。	下着類製造業
	継続して、消費意欲が低く、発注数が少ない。生き残った企業、産地は互いに連携を模索している。円高の影響で、商品輸出と海外製造で儲けが出ない。海外ブランドの輸入代理店では、収益が出ている。	外衣・シャツ製造業 山口市
	9月からの生産見通しが立たず苦慮している。原発の影響で中国研修生・実習生が帰国し、仕事量についても影響を覚悟したが、連休以降思ったよりも仕事量はあった。しかし見込んだほど消費が伸びず、アパレルメーカーは苦戦している模様。又、厳しい残暑が続くそうなので秋物の生産は、ぐっと少なくなりそうである。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	組合員の中で、林野庁の補助金を受けて施設・機械の更新・新設したところがあるが、売上増には至っていない模様。	製材業・木製品製造業 下関市

	今月も、小学校の材料受注があるので、昨年よりは良いが、全般的な景況は悪い。	製材業・木製品製造業 岩国市
印刷	例年、お盆を含む夏場は仕事量が減少する。今年は更に震災、経済状況の混乱、円高による国内生産の低下など先行き不透明な要因により、仕事量が減少している。今後、商業印刷、出版印刷の減少も見込まれ、抜本的な改革が急がれる。	印刷
	10月に用紙代が10%近く上がると紙業メーカーから情報が入っている。すでに契約している年間契約の物件や、今後の入札価格に反映出来ない面もあり、印刷業界の秋は益々冷え冷えとする。	
窯業・土石製品	前月と同様、北西部・周南・大島が増、新下関・中部・岩国が減、全体で対前年度同月比94%。公共の伸びが期待できない中、民需への依存度が高まる傾向。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていないが、今後の値上がり等は懸念材料。	生コンクリート製造業
	出荷量については、対前年比で骨材：110% 路盤材：117% 再生材：91% 全体では、対前年同月比：109%。相変わらず顧客（建設業者）の倒産が散発している。国体に向けての作業が24時間体制で行われている為、雇用人数は一時的に増加している。	砕石製造業
一般機器	急激で行き過ぎた円高により、特に輸出関連の収益悪化が甚だしく、輸入素材等の円高還元のメリットはうかがえない状況にある。また、中国のインフレ懸念も一段と高まっており、一部設備投資意欲の減退も見られる。	柳井市
	相変わらず、配管酸素・プロパンガスの使用量が低迷している。	周南市
	震災の影響が続いている。	下関市
	リーマンショック以降、下降線を辿っていたが、本年の3月11日の東日本大震災に加えて、超円高により、自動車業界と取引のある組合員の景況は芳しくない。設備関連の組合員は、8月まではフル稼働であったが、10月以降の見通しが立たない様子。	防府市
	株安・円高の影響が危惧される。	宇部市
売上、在庫等もほぼ前月通りで推移している。		

	8月は受注が低迷している。国内需要が落ちている様子。8月の工場操業度は先月同様上がっているが、円高の影響も有り海外シフトする企業が増えて、国内需要はますます減少してくるものと思われる。そんな中だが、医療関係、自動車関係でのHVモーター、EVモーター関連の動きが出て来ている。但し、自動車関連は国内で立ち上げ、その後中国へシフト（設備稼働）する企業が多く見受けられる。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	車両部門では全国的に作業量の踊り場に入ってきたため、生産高の上積みが難しくなっている。一方、コスト競争は厳しさが増し、利益なき繁忙のトンネルに入ってきた。精密加工部門は好調の2年目を迎えている。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	これといった変化は見られない。	柳井市
	各業種とも受注減や消費者の買い控え、原料価格の高騰などの影響が有り、収益・経営とも縮小・悪化傾向にあり、中小企業の先行き見通しは暗い。10月以降の下期に持ち直しを期待している。	周南市
	依然として、好転するような要因が見つからない。	防府市
	原材料の価格上昇、食品価格上昇が続いている。節電の関係で、自動車関連企業の一部で平日休業しているところがある。	山口市
	ガソリン価格が約5円程度値下がりしており経費削減となっている。建設関係卸については工事が減少しており出荷減となっている。今後の見通しは立たない状況で苦慮している。	下関市
小売業	8月はあまり変化の無い月であった。9月に理事会、9月中旬に中国ブロックの理事会も開催される。	化粧品小売業
	世界的な金の価格の高値により、金の店頭買取が非常に多くなっている。	中古品小売業
	帰省客は21日ごろまで分散したため、特に目立った集中日はなかった。	周南市
	猛暑、円高、株安、震災、家電消費の一段落かの何れの要因かは不明であるが、8月に入った途端に売上高が前年度比10%以上の大幅にマイナスとなった。昨年の8月に特にイベント等は行っていない。	山口市
	入館者、売上微減。	下関市
	全体的に売上、客数共前年を下回る厳しい状況が続いている。	長門市

<p>商店街</p>	<p>9月上旬に新規に郊外大型店がオープンする。売上から「市への寄付、地産地消の協力、市民による植樹祭の協力」を行うなど、地域により密着しようとする姿勢が見られ、同時に既存大型店においても更に地域密着を目指した計画がある。商店街においては、アーケード撤去・修理問題、商店街へのアクセスの問題、後継者問題、空き店舗・業種不足問題、少子高齢化による顧客数の減少問題等様々な問題を抱え、先々不安な材料が多い。商店街が一つにまとまった企業として、徹底した問題解決に取り組む必要がある。</p>	<p>萩市</p>
	<p>隣接した商店街の火災で、移転先を探す動きがあるが、古い木造住宅兼店舗が多かったため、地主が再建の決断をするかどうか不明。火災跡地を営業店舗にするのが良いのか、買い物客の利便性を高める施設とするのが良いか、模索中の模様。</p>	<p>山口市</p>
<p>サービス業</p>	<p>暑い夏でカットの客足が伸びたが、8月下旬は雨が多く客足が伸びなかった。</p>	<p>美容業</p>
	<p>業界の経営環境が大きく変化しているので、今までの方式では対応できない部分も多い。景気後退により消費意欲の低下等影響が大きい。社会全体の転機に期待したい。</p>	<p>理容業</p>
	<p>自動車メーカー各社はハイブリッド車や電気自動車だけでなく、独自の技術を盛り込んだ低燃費車の市場投入を加速させている。高度な電子制御技術が搭載されていることから、不具合対応には診断機を使用した診断が不可欠となるが、専門工場にとって全ての車種に対応することは事実上困難となることから、メーカー系販売店等との連携強化等が重要となる。</p>	<p>自動車整備業</p>
	<p>夏場は、売り上げ増の期間だが、今年は県内どこの地域も今一つ盛り上がり欠けた。国体前後で、なにか特需的なものがあればうれしいのだが。</p>	
	<p>状況は先月と変わっていない。新しいビジネスモデルの創出が急務である。組合員の中では、新しい事業に挑戦しているものもある。</p>	<p>情報サービス業</p>
	<p>依然として厳しい状況ではあるが徐々に営業の効果もでてきている様子。引き続き新たな需要を掘り起こしていかなければならない。</p>	
	<p>国体の仕事に直接的に係わる事業所は少なく、他県に本社のある企業からの下請けの下請けといった残念な様子が見られる。各自治体からの細かい発注はいくらかある模様。</p>	<p>屋外広告業</p>

	<p>夏らしい8月が復活した結果、顧客が帰ってきた店舗も出現。上向き感がでてきた。しかし、ばらつき感はいなめず、はっきりとしたターニングポイントはない。円高により、食材価格の値上げが止まったところも。国体の開催地には本格的な景気の期待感があり、予兆的活性化が見られる。円高は物価の安定に寄与しているように見えるが、製造業を中心とした円高による製造コストの上昇が、今後景況にどのように作用するか不安が残る。新内閣の発足が少しの期待感をもたらしたが、政府の景気浮揚策には失望する。対前年比に変化なし。</p>	<p>飲食業</p>
	<p>宿泊客数は対前年同月比で14%増加したものの、単価が下がっているので売上増には繋がっていない。また、宿泊客数を大きく伸ばした宿と、逆に大きく減らした宿があり、組合員間で格差が広がっている。</p>	<p>旅館業 萩市</p>
	<p>原発問題が解決せず、重苦しい状況は変れない。地域に観光客は増えている。宿泊単価が、安価に移行しているので、忙しいが収益は上がらない。この傾向がなかなか改善出来ない。海外のお客様も、原発問題の状況がはっきり発信されない限り、見込みがない。</p>	<p>旅館業 下関市</p>
<p>建設業</p>	<p>耐震工事が一度に複数発注され、工事期間にゆとりのある物件とそうでない物件があり、それぞれ発注者の要求もあるので、対応が大変となっている。業者間の格差は相変わらずで、業界全体が上向きとはなかなかならない。</p>	<p>鉄骨工事業</p>
	<p>中電への工事申請7月283件(当支部分274件)前年同月219件(同162件)。太陽光発電への申請26件(前年13件)、オール電化申請22件(同15件)。LED街路灯への切替・新設申請は54件。震災以後エコ意識の高揚により受注は、順調に推移の様子である。</p>	<p>電気工事業</p>
	<p>今までの経済状況で廃業した専門請負工事業者も有る。短工期の仕事が多くなりつつあるのに、技能者が不足しつつあり、工事が遅れぎみである。</p>	<p>左官工事業</p>
	<p>平成23年度分の公共事業の発注が本格化した、依然として低調。</p>	<p>土木工事業 柳井市</p>
	<p>多少、公共工事の発注と積算の件数は増えたようだが、業者の数からすれば少ない。先を考えると、仕事が増えるか業者が少なくなるかのどちらかしかないが、現実問題としては後者の方しかないと考えている。</p>	<p>土木工事業 岩国市</p>

	23年8月の受注高は、対前年同月比16%。今年度の累計は、対前年比47%。	土木工事業 萩市
運輸業	輸送関係は、猛暑と円高で、国内外とも輸送量は前年対比50%減。飲料用容器材輸送はこの暑さで増加すると見ていたが変わらず、購買量の減少が見られる。東日本の生産体制が正常化していない為、輸送業者にとっては、東日本大震災によるダメージは大きく、厳しい8月であった。油関係は、高止まり価格に輸送量、運賃収入共に激減で経営は圧迫度を強めてきている。	一般貨物自動車運送業 下松市
	円高であれば、輸入に頼っている日本の油価格は下がって当然のはずであるのに、逆に上がりっぱなしとなっている。8月分軽油価格：1ℓあたり、SS価格103.1円、インタンク（タンクローリー配送の運輸会社の備蓄分）価格106.1～111.0円で取引している。一般の店頭価格：1ℓあたり、121～124円である。	一般貨物自動車運送業 下関市
	8月の輸送稼働は前年並みに落ち着いてきた。原油価格はアメリカ財政の不安を受け乱高下しており、燃料価格は落ち着きを見せていない。また、超円高の時世による大手荷主による合理化、生産拠点の海外移転等により我々物流業者にとっては、物流量の絶対的低下が懸念される。	一般貨物自動車運送業 防府市
	運輸業界の8月はお盆休みもあり毎年売上が上がらない。前年同月が良すぎたこともあるが、今年は非常に悪い。ここ数か月の流れとしてはほぼ横ばいの状態。取引先の製造工場でも順調なところも出てきているので、東日本大震災の影響も今が底で、この底を抜ければ荷物が動き出すことを期待している。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	給油量から見る操業度の状況は、対前年同月比で107.4%と約7ポイントのアップとなった。この要因は、6・7月に引続き、8月度もダンプ車の稼働が良く、関係会社合計の給油量が対前年同月比で108.4%と約8ポイントのアップであったため。一方の油価格は先月からは2.0円ダウンの102.0円/ℓだが、対前年同月比では10.5円と大幅アップの状況が続いている。	一般貨物自動車運送業 萩市
	タクシーチケットの取扱い金額は、前年比+0.5%（7月1日～8月20日分）。7月1日～31日分は△3.1%と減少、8月1日～20日分については+7.6%となりました。今年7月は日曜日（病院、飲食店が休むためタクシーも閑散日の傾向）が1回多かった事もあり、なかなか順調に回復しているとは言えない状況。燃料のLPGは、CP（通告価格）	一般旅客自動車運送業

	<p>と為替に連動して変動するが、8月分は7月分より更に下がったものの、前年同月比+11.5%と高値状態で、各事業者の経営に悪影響を与えている。会期前ですが山口国体のクレール射撃が9月11日から開催され、宿泊先もほぼ満杯状況のようで、タクシー事業者も公共交通機関の一員として、円滑な進行に協力していきたい。</p>	
--	---	--